は全部八郷地区である。トンネル開通後は、北インターから十分で通過してしまうのではないか。地元でのトンネル整備は待ち望んでいるが、大変不安もある。トンネル整備後の小野小町、新治地区、土浦市観光の集客はどうするのか伺う。

＜産業部長＞

新治地区への観光、レジャー客の集客については、観光拠点を小町の里に置き、朝日峠にあるウッドセンターまでのハイキングコースや、山麓でのパラグライダー等、今までにないスカイスポーツなどの新しい観光体験スポットも誕生し、観光果樹園と併せて観光客誘致に努めている。トンネル整備後の誘客対策は、新治地区の優れた観光資源と霞ヶ浦、土浦城址等歴史的文化財、城下町としてのまちなみ等を生かし、漫遊いばらき、ＪＲ東日本の小さな旅事業、駅からのハイキングの実施など、市全体の連続性を持たせた観光に取組み、さらには周辺市町村とも連携を図りながら誘客に努めてまいりたい。

（掲載以外の質問事項）

二　食育、食農教育について

三　土浦市農業公社について

小町の里

「定員適正化計画」による消防職員の削減で安心・安全を確保出来るか

久松　猛　議員

＜質問＞

職員削減計画である定員適正化計画で全職種を対象に一割削減するとしており、消防職員に当てはめると十七、八人の削減となる。高齢化がさらに進む中で救急出動は一層増大することが目に見えており、今でも不足している職員をさらに削減すれば、消防業務に重大な支障を来すことは明らかである。平成十八年度は三人の削減を行っているが、百八十五人という定数を満たすことこそ市長の果たすべき責務と考える。見解を伺う。

＜市長＞

定員適正化計画は、職員を一律に削減するものではなく、真に必要な行政需要には人員の配置を行うなど柔軟で適切な対応を図るものであるが、消防についても最少の人数で最大の効果を発揮させるためには、他の部署と同様に絶えず組織機構の見直しを始め、人材の育成、ＩＴ化の推進を図るとともに、自主防災組織の育成と協働、広域体制の強化など機能的、効率的な運営を積極的に進める必要があるとも考えている。いずれにしても、絶えず変化する現場や機能、効率化の進捗状況などを十分に把握しながら、消防職員の適正配置に努めてまいりたい。

（掲載以外の質問事項）

二　都和支所脇市道の溢水対策について

三　県道牛渡馬場山土浦線及び県道土浦新治線の整備見通しと促進について

四　朝日峠ハイキングコースの整備について

霞ヶ浦を目玉として検討している事業は

盛　良雄　議員

＜質問＞

第六次土浦市総合計画における八項目のリーディングプランのトップに、霞ヶ浦の活性化があり、その具現のための主要事業の第一に、観光資源の活用が掲げられている。このことから、霞ヶ浦を土浦市の観光の売りとする事業について、どのような事業があって、どの程度進捗しているのか伺う。

＜産業部長＞

霞ヶ浦の広域性を考えると県や周辺市町村との連携が不可欠であり、今後は、土浦市、かすみがうら市、阿見町など九市町村で組織された霞ヶ浦広域観光ルート促進協議会により、霞ヶ浦の目玉となるような新しい観光施策を創出し、観光客誘致の促進を図ってまいりたい。霞ヶ浦の魅力をアピールするには、水質浄化が重要なポイントなので、市民一人ひとりの力を借りながら水質浄化に積極的に取り組み、霞ヶ浦の魅力を高めるとともに、市と観光協会のホームページを充実させての情報発信や新たな観光拠点づくり、広域観光ネットワークの構築等にさらに取り組んでまいりたい。

（掲載以外の質問事項）

一　「いじめ」について

定例会の詳細につきましては下記施設にあります会議録を御覧ください。なお、平成18年第4回定例会の会議録につきましては、3月上旬頃閲覧可能となる予定です。

館所所所所所館館館館館館館館館
書支津　支支張張民民民民民民民民
図南上都中神都一二三四上六新
大和　央立和地地地地津地地地
支出出公区区区区区区区区区区
中中中中中中大中治

次回の定例会日程は、3月6日～20日（一般質問は 12日・13日・14日）の予定です。